

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

モンゴルの未来に向かって 技術を磨くエンジニア



バータルフー バヤルバータル さん

モンゴル ウランバートル出身
美里町在住
キョーユー株式会社勤務

— はじめて来日したときのことをお話しください。

私は子どもの頃から車や機械に興味があり、大好きなものづくりに関する専門分野をじっくり5年間学べると知り、モンゴル高専*の1校に1期生として進学しました。そして、モンゴル高専4年生の2018年に仙台高等専門学校(以下、仙台高専)との3週間の交流プログラムに参加するため来日しました。滞在中に県内の企業を何社か見学したのですが、現在の職場はそのうちの1社で、強く印象に残った会社でした。今思うとその頃から縁があったのかなと思っています。当時、私はモンゴル高専で卒業研究に取り組んでいて、1日がかりでフライス盤や旋盤といった工作機械を使って切削加工の作業をしていましたが、キョーユーでは同じ作業が3分で終わることを知ったのです>(*モンゴルの日本留学経験者らが母国発展のため、日本の高専と同じカリキュラムを持つモンゴル高専3校を創立し、2014年に開校)

— バヤルさんはモンゴル高専卒業後、仙台高専の専攻科へ編入したそうですね。

モンゴル高専3校の1期生142人のうち42人が日本企業に就職しました。私も将来は日本で働く決めていましたが、交流プログラムで参加した仙台高専の編入試験に受かり、就職前に留学生として再来日することになりました。モンゴル高専では、5年間日本語を週に2コマ勉強し、日本語能力試験のN3に合格していましたが、学校や職場で円滑なコミュニケーションを図るためにはまだ不十分だと聞いていたので、卒業してから再び日本に来るまでの間、母校で日本語教師の通訳や翻訳の仕事を手伝い、日本語の勉強を続けました。来日直後の2020年4月からしばらくコロナのため対面授業がなかったため、寮生活をしながらオンライン授業を受けました。残念な状況でしたが、私にはメリットがありました。授業の動画を再視聴できたので、何度も繰り返してことばの速さに慣れ、語彙を増やすことができました。寮の食事は、肉のメニューが多いモンゴルと違い野菜や魚が多かったのですが、私は魚も好きなので大丈夫でした。学業優先で難しいかなと考えていた新しい友人もいつの間にかでき、焼き肉を食べに行ったりしました。

— 2年間の留学生活を経て、2022年4月に美里町の企業に就職されましたが、担当業務について教えてください。

複数の切削加工機を使用し、様々なお客様向けの部品を作っています。入社後は、工具の日本語名、例えば「エンドミル」などが分からず、仕



上司や同僚と図面を確認中のバヤルさん(右)

事環境に慣れるまで2か月くらいかかりましたが、上司の丁寧な指導のおかげで、今は新しい図面を受け取るたびに新たなチャレンジを見つけ、仕事にやりがいを感じています。気付いたことは、モンゴルでは「どうしたら早く終わられるか」ということを重視しますが、日本人は「どうしたら良い結果をだせるか」と意識しながら仕事をするのです。

— 社会人になって、どんな変化がありましたか。

就職を機に美里町へ引っ越して1人暮らしを始めました。両親は、私の自炊生活に心配はしていないようです。今は早番遅番のシフトがある勤務形態になり、早番勤務時は、明るいうちに役場での手続きが行えたり、ドライブに行けるので嬉しいです。

現在、110人ほどのモンゴル高専卒業生が日本で働いていますが、悩みを持ちながらも相談できずに帰国した仲間がいたことがわかりました。悩みを打ち明け、先輩からのアドバイスがあったら違う結果だったかもしれないと残念でなりません。その後「モンゴル高専卒業生会」が設立され、校長先生から打診を受けた私が初代会長となり、FacebookやInstagramで交流を始めました。言語はほぼ日本語で、学習の場にもなっています。また月に1回東京で集まり、スポーツ大会や相談の場を設けています。BBQも計画中です。私たち日本在住のモンゴル高専卒業生は、日本で技術を磨き、将来はモンゴルを発展させたいと高い志を持っています。それまでは日本で精一杯頑張ります!

🔍 モンゴル高専卒業生会Instagram: MKTX.INJAPAN

キョーユー株式会社の取締役管理部長 畑中麻美さんに伺いました。

弊社では初めての外国人採用でした。これまでの仙台高専、大崎市およびNPO法人未来産業創造おおさき(MSO)とのつながりがあったからこそ実現しました。私たちはモンゴルから優秀な人材をお預かりし、しっかり育ててお返ししなければなりません。採用時は、彼の日本語能力が高いのでことばの壁はほぼなく、在留資格や住まいに関する手続きが日本人採用と異なるくらいでした。彼の直属の上司によれば、作業の段取りもスムーズに進められるようになり、手が空くと周りを見て手伝いを申し出ているとのこと。心配りができ、先日開催された社内プレゼン会でも能力の高さを発揮するなど、他の社員にも良い影響を与える頼れる存在です。

「みやぎ外国人相談センター」から

タブレット端末によるビデオ通訳・機械翻訳が利用できるようになりました。

みやぎ外国人相談センターでは、外部の多言語コールセンターを活用して、主に電話による、日本語を含めた13言語での相談対応を行ってきました。今年度から対面での相談対応の更なる充実を図るため、タブレット端末を本格導入し、12言語に対応可能な音声入出力機能を備えたAI機械翻訳と、外部の通訳者に繋いだビデオ通訳を利用できるようになりました。

みやぎ外国人相談センターは、6言語の相談員が毎月決まった曜日に勤務していますが、不意のご来所の場合に相談者の言語で対応できないこともありました。今回タブレット端末を導入したことで、相談員の勤務日以外にも外国語での相談対応がしやすくなりました。日常生活でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。



みやぎ外国人相談センター TEL 022-275-9990 月曜日～金曜日 9:00～17:00

● 対応言語：中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第7回 大郷町立大郷小学校非常勤講師・MIA外国人児童生徒支援アドバイザー 大竹 幸恵さん

外国につながる子どもたちは小学校でどう学んでいるの？

本校には一学年・二学年・五学年・六学年にパキスタンの児童五名と二学年にスリランカの児童一名計六名が在籍しています。日本語の力は一人一人違うため、個々の力に合わせた「特別的教育課程」を編成し、「個別の指導計画」のもと日々の指導を進めています。主な指導は二通りあります。一つは児童の在籍学級の指導時間に日本語学級で日本語指導担当教師から日本語の指導を受ける「取り出し指導」です。もう一つは在籍学級での授業の中で日本語指導担当教師が対象児童を支援する「入り込み指導」です。

初めて日本の小学校に通う児童は、環境が大きく変化したこともあります。周りから詳細な情報を得られることが少なく不安でいっぱいです。「入り込み指導」では担当教師が隣にいて支援をすることで、児童は安心が得られ、居場所を確認し、少しずつ学びを広げることができます。また、日本語をある程度理解している児童には、一斉指導の中で具体的な場面の指導が効果的です。「入り込み指導」を行うことで、周りの児童と同じタイミングで理解し、学習意欲の高まりと同時に自信につながっていきます。担当教師にとっては、児童を注意深く観察することで、今後の指導の方向性の手がかりを見出すきっかけにもなっていきます。

在籍学級での一斉指導の中で、理解できることは、児童によって違います。周りと同等に理解できるまでには、「取り出し指導」で日本語をじっくりと学ぶ必要があります。各々の実態やこれまでの学習状況に応じて計画的に集中して学ぶことは、基本的な日本語の能力を向上させ習得を早めます。そして日本語がある程度理解できる児童にとって、教科学習を理解するための日本語力を獲得する学びにもつながっていきます。

また、児童を多角的に把握し、個の自立につなげるためには、学習指導だけでなく、学ぶことへの目的意識や楽しさを味わわせることをはじめ、生活指導や心のケア等にも注意をしていくことも必要です。そのために担当教師だけの指導とともに、学校全体での組織的な指導が不可欠です。校内で連携を図り、共通理解のもと指導を展開していくことで、児童はより安心して学校生活を送り、自身の持つ能力を十分に発揮することができるでしょう。今回は学校内外での連携についてお伝えしていきたいと思えます。

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『外国につながる子どもの日本語教育』 編著：西川朋美 発行：(株)くろしお出版

多文化背景を持つ子どもについて、文部科学省の調査によれば日本語指導を必要とする児童生徒は、1991年には5千人でしたが2021年は5万人を超えています。

本書は、8名の著者による、子どもの日本語教育の「実態」、「実践」と「育てる言語の力」の3部構成となっており、中でも学校に編入してきた児童・生徒の日本語力を評価する方法、教材の紹介や選び方、教科学習に必要な言語力など、学校関係者や支援者が必要とする情報がこの1冊にまとまっています。

発行：*倶楽部MIAで紹介する本や冊子は、以下の対象者へ貸し出しをしています。

- ①MIA日本語サポーター
 - ②外国人児童生徒サポーター
 - ③県内日本語講座に所属するボランティア日本語講師
 - ④外国籍児童生徒が在籍する県内小・中学校
 - ⑤MIA賛助会員
- 詳しくは、お問い合わせください。





県内の日本語教室を多言語で検索できます

県内には、公的機関やボランティア団体が開催している日本語教室が8市3町あわせて23カ所にあります。MIAのウェブサイトで6言語(英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、日本語とやさしい日本語)で、学習場所や開催曜日・時間をご覧いただけます。

お近くで日本語を学びたい方がいましたら、是非お伝えください。

<https://mia-miyagi.jp/japaneselist.html>



MIAウェブサイト英語ページ

MIAによる「やさしい日本語」普及の取り組みについて

MIAでは昨年度「やさしい日本語」の普及啓発の研修を7か所(丸森町、柴田町、気仙沼市、石巻市、涌谷町、大崎市、仙台市:県内市町村職員対象)で実施しました。これは、県から委託を受けた「令和4年度地域日本語教育体制構築業務」(文化庁補助事業)の一環として取り組んだものです。一般市民や行政職員、民生委員など、対象は開催地域によって異なり、全会場で合計184名の方にご参加いただきました。

多くの方にとって、「やさしい日本語」に触れたのは初めてのことのようでしたが、実施後のアンケートでは、殆ど全員の方が「今後の活動や仕事の参考になった」と答えていました。その「今後の活動や仕事」として想定されたのは、外国人を念頭に置いたものに限りません。「高齢者や子どもとのコミュニケーションにも役に立つ」という感想が行政職員と一般市民の双方から多く寄せられ、「やさしい日本語」の守備範囲の広さに改めて気付かされました。

また、この7か所での研修以外にも、日本語学習支援者等を対象とした研修の一コマとして「やさしい日本語」を組み込んでおり、その受講者数を加えると、昨年度は約250名の方に「やさしい日本語」について理解を深めていただくことができました。

情報の多言語化、日本語教育、そして「やさしい日本語」の普及。社会が多文化化するなか、コミュニケーションや情報伝達を円滑にするためには、どれも大切なことです。MIAは今後も引き続きこれらの取り組みに力を入れていきたいと考えています。



大崎市での研修の様子

※出入国在留管理庁と文化庁設置の「話し言葉のやさしい日本語の活用促進に関する会議」が作成した、「やさしい日本語の研修のための手引」が3月に公開されました。この手引きには、行政職員等が研修を企画・実施するのに役立つ情報がまとめられており、宮城の事例も紹介されています。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/pdf/93861601_01.pdf

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001393591.pdf>

多文化 なトピック

宮城県多文化共生アンケート調査を実施しました(宮城県経済商工観光部 国際政策課)

宮城県では、国籍や民族等の違いに関わらず県民が安心して暮らせる多文化共生社会づくりを進めるために、県内に住む18歳以上の外国人1,900人及び日本人1,500人を対象にアンケート調査を実施しました。

本アンケート調査は5年ごとに行っており、今回の調査では初めて日本人も調査対象としました。

外国人を対象とした調査結果では、日本人との交流希望についての設問に「日本の文化や習慣を学びたい」(40.2%)、「地域の行事にもっと参加したい」(38.8%)など、交流に前向きな回答が多く寄せられました。

また、日本人を対象とした調査結果でも、今後の外国人との付き合い方に関する設問では「日常会話をしたい」「文化やスポーツ等での交流をしたい」といった希望が数多く見受けられました。一方、「多文化共生」という言葉の認知度に関する設問に「知らない」と回答した方が35.0%おり、多文化共生の考え方について、日本人の意識をさらに高め、外国人住民が地域と交流できる環境を整えていく必要があることが分かりました。

県では、アンケート結果を踏まえ、今までの施策を振り返り、多文化共生社会の実現に向けた取組をこれからも推進してまいります。

アンケートの結果については、下記URLから全文がご覧いただけます。

https://www.pref.miyagi.jp/site/tabunka/r4questionnaire_2.html



MIA日本語講座だより

今年度第1期のMIA日本語講座が4月11日に開講しました。週に4日間の初級クラスと週に2日の中級クラス、そして週に1日の夜間初級クラスがあります。

今回の初級1クラスは受講生が10人を超えて、久しぶりのにぎやかなスタートとなりました。初級1クラスの担当で、日本語講座スーパーバイザーの伊藤かよ子さんにお話を伺いました。「今回たくさんの方に受講して頂き、非常にうれしく思います。以前は日本人の配偶者が受講生の多くを占めていた時もありましたが、現在は国籍や職業などのバックグラウンドも多様化しており、その時々で世の中の情勢を反映して受講生の構成も変化していると感じています。」とのこと。

開講初日は緊張した様子の受講生たちでしたが、少しずつ打ち解けてきて、習いたての日本語を使って助けあひながら学ぶ様子がみられます。

クラスの大きな目標である「クラスに馴染んで、日本語の学習を楽しんでもらうこと」が早くも少しずつ実現しつつあるようです。各クラス最後の日には、どれくらい日本語でコミュニケーションができるようになるか楽しみです。



日本語講座 初級開講式の様子



みやぎの国際活動団体

宮城アフリカ協会 (AFAM) 会長 アスイードウ・アイザック・ヤウさん

昨年創立20周年を迎えたAFAMは、東北地方の大学に在籍する約80名の学生と、日本に在住する約30名の社会人等で活動しており、東北在住の留学生の支援を行うと共に、アフリカの文化や価値観に対する理解を深めるため、イベントを主催したり、市民活動に参加したりしています。

遠い存在と思われるアフリカを、地域の皆様にもっと身近に感じていただきたく、この度、アフリカ情報誌「AfriMag(あふりまぐ)」を発行し、県内の学校を中心に配布することになりました。アフリカに関する話題、文化、伝統、音楽、ダンス、ファッション、アフリカと日本とのつながりなど、幅広く紹介します。記事は、AFAMのメンバーや元留学生が取材・執筆しており、これから年2回、日本語と英語で発行する予定です。

🔍 AfriMagをご覧ください : <https://afam-org.com/afriMag/>



アフリカ情報誌「AfriMag」

サポーターの声

(番外編) 鷹見テレサさん 元MIA外国人支援通訳サポーター ミャンマー語登録、千葉県在住



2023年3月、気仙沼市役所とMIAの共催で在住外国人向けの防災研修会を開催しました。インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー出身の技能実習生が参加しましたが、このうちミャンマーの技能実習生に対してはMIAとしても初の試みでオンラインによる通訳を行いました。このオンライン通訳に協力いただいた鷹見さんにお話をうかがいました。

ミャンマー人の技能実習生は6人いました。感染対策のために間隔をとって座っていたために、画面を通じて全員の様子を見ることはできませんでしたが、顔の表情までは見えず、わたしの声が聞こえているのか、わたしの通訳が理解されているのか、最初のうちはそこがつかめず、少し不安を覚えました。でも、問題がないことが次第にわかってきて、そ

こからは対面のときと特に変わらず通訳を進めていくことができました。

座学の会場から地震体験の場所に移り、消防士さんの説明なども問題なく通訳しましたが、ひとつ小さな事件が起きました。実習生が緊張していたためか、靴を脱いで地震体験装置に上がるべきところ、靴のまま上がっていくのが画面越しに見えました。わたしが「靴!靴!」と何度か呼びかけたのに実習生が気づいて、靴を脱いでもらうことができました。

会の最後には、わたしかからも「災害は起こるものなので真剣に受け止めてください」と実習生たちにお伝えしました。大切な仕事に関わられて、わたしもうれしく思いました。



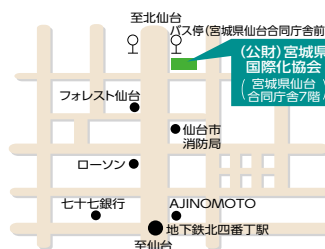
賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典
① 協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)

- ② 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ③ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ④ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
① 本協会あて御連絡ください。
② 所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.127

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

